

腎移植術を受けた患者さんまたはご家族の方へ  
(臨床研究に対するご協力のお願い)

獨協医科大学埼玉医療センター麻酔科では、上記の病気で受診された方の診療情報を使用して臨床研究を実施いたしております。本研究に該当する可能性のある方のご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、ご協力いただけない場合であっても今後の治療に不利益を受けることはありません。

本研究への協力を望まれない患者さんおよび本研究の詳細内容（実施計画書・関連資料等）について閲覧になりたい方は、下記の【問い合わせ先】までご連絡をお願いします。

【研究課題名】

腎移植術に対する術後鎮痛法の違いによる術後の痛みの程度(NRS)の比較(後ろ向き研究)

【研究の背景と目的】

一般的に、腹部手術の術後鎮痛としてTAPブロック(へその外側に局所麻酔をする神経ブロック)は有用とされていますが、鎮痛範囲は比較的小腹の下の方に限定されると言われています。近年発表されたM-TAPA(modified Thoraco Abdominal nerves through Perichondrial Approach)ブロックは、肋軟骨の近くの筋膜の表面に局所麻酔薬を注入することで、お腹の上の方を中心に鎮痛効果が得られるとされています。

腎移植術に対しての術後鎮痛は、各々の麻酔科医の判断により、鎮痛薬であるフェンタニルの持続静脈投与や、持続M-TAPAブロックなど方法がとられてきましたが、その有効性は明らかになっておらず、しばしば疼痛管理に難渋することがありました。それを受けて今回、持続フェンタニルの静脈投与だけで術後疼痛管理を行った方と、持続フェンタニル注にM-TAPAブロックとTAPブロックを追加して術後疼痛管理を行った方の術後の痛みを比較検討し、腎移植術の術後鎮痛におけるM-TAPAブロックとTAPブロックを追加することの有用性を評価します。

【対象となる方】

当院で2023年12月22日から2024年5月7日までに待機的に腎移植術を受けた患者さんのうち、フェンタニルの持続静脈投与を受けた患者さん、もしくはフェンタニルに追加してM-TAPAブロックとTAPブロックを併用して受けた患者さん

【使用する検体・診療情報】

使用する診療情報は以下のとおりです。

カルテ情報：

- 患者背景 身長、体重、生年月、性別、BMI
- 手術中 手術時間、麻酔時間、神経ブロック併用の有無
- 手術後 術後から退院までの日数、術後48時間以内に使用された鎮痛薬の種類(アセトアミノフェン、その他)とその量、手術終了から離床(リハビリ)開始までの時間、神経ブロックによる合併症(運動・感覚神経障害や局所麻酔薬中毒)の有無
- Numerical Rating Scale(NRS)(手術終了直後、2時間後、6時間後、12時間後、24時間後、48時間後)

【研究期間と参加予定人数】

この研究は病院長の許可日(2024年6月24日)から2025年1月31日まで実施され、10名の患者さんが対象となっております。

【個人情報の保護】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを特定出来る個人情報は削除し、収集されたデータは、個人が特定できないよう通し番号などで匿名化されたのち解析を行います。

また、使用した検体やカルテ情報を廃棄する際も個人情報を削除して廃棄いたします。

【結果の公表】

この研究の研究成果は2025年に開催される学会で発表をし、論文投稿予定ですが、その際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

【研究責任者】

獨協医科大学埼玉医療センター 麻酔科 奥田 泰久(教授)

【問い合わせ先】

獨協医科大学埼玉医療センター 麻酔科 担当者：山口 颯人(レジデント)

埼玉県越谷市南越谷2-1-50 電話番号：048-965-4948(医局直通) 8:00-17:00(月・水・木)

以上